

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第2回）議事概要

日時 令和7年(2025年)5月14日(水) 14:00~15:30

場所 宝塚市役所第二庁舎 1 階 会議室 A・B

出席者

＜まちづくり協議会＞

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	綿 昭人会長	●	△
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	△
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	△
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明会長		△
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長	●	△
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	△
まちづくり協議会コミュニティ末広	溝本 直人副代表	●	△
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	山本 敏晴会長	●	△
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	△
宝塚市すみれが丘小学校区まちづくり協議会	島津 早苗代表	●	△
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 育会長	●	△
壳布小学校区まちづくり協議会	赤阪 俊一会長	●	△
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長	●	△
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	△
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	△
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	△
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	△
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	奥野 廣明政策室長	●	△
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長	●	△
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	△

＜その他＞

市民交流部　藤田部長、新城次長

市民協働推進課 久住係長、押川職員他

總務部 橫山次長

宝塚市立看護専門学校 宮崎課長

都市安全部 江崎部長、中村次長

公園河川課 雜賀課長、児玉係長、藪内職員

宝塚 NPO センター 平岩氏

宝塚市社会福補協議会 地区担当支援課 前園課長

傍聴者 なし

議事録概要（要旨）

1. 看護専門学生の地域での活動について（看護専門学校）

宝塚市立看護専門学校より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

- ア 看護学生が地域のサロンや会議等で実践的に出前講座のようなものを行うということか。
- イ （看護専門学校）内容による。事前の調整や内容の話し合いは、学校職員が行った上で、学生が実践する。
- ウ 資料に記載されている参加可能な時期は、調整ではなく、実際に来ていただく時期ということか。
- エ （看護専門学校）そのような認識である。
- オ これまでも地域包括支援センターに同様の講座をお願いしているが、一緒にしてもらることは可能か。
- カ （看護専門学校）可能である。
- キ イベントに来てもらう際は、対象者の年齢や人数を提示したら、両者でカリキュラムを調整して、当日来てくれるということか。
- ク （看護専門学校）イベントの日程を教えていただけたら、6つの学生グループから参加できるグループと調整して、行かせていただく。期間内であれば、できる限り調整して参加したいと考えている。
- ケ お祭りでも来ていただけるのか。
- コ （看護専門学校）身体測定や感染症予防等の健康に関するブースを設置させていただけたらと思う。
- サ 時間を提示したら、その時間でやってくれるのか。
- シ （看護専門学校）はい、時間でさせていただく。
- ス 配布資料に記載されている内容以外でも、実践可能か。記載されていることは地域で普段からやっていることが多いため、目新しいものができないかと思う。
- セ （看護専門学校）学生たちが学んできたことを実践し地域に貢献していく授業のため、限られた内容になる。生活改善についてアドバイスするような内容が中心になると思う。
- ソ 看護学校のホームページのカリキュラムを見れば、依頼する内容を決めやすいか。
- タ （看護専門学校）ホームページには科目名は載っているが、具体的な活動はInstagramにわかりやすく載せている。

2. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第1回）議事概要の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、ホームページへ公開することが承認された。

3. 令和7年度地域きずな研修の実施

(1) 令和6年度アンケート結果について

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり

- ア アンケートの総合的評価で、あまりよくないと回答している研修職員がいるが、そのような評価をした理由が知りたい。どこに問題があるかを確認し改善するべきではないか。
- イ (市民協働推進課) 平成29年度から実施している取り組みで、毎年ブラッシュアップしている。研修職員からの評価は、約8割が良い研修だったと回答し、前年度に比べて増加している。評価が良くない回答の要因として、採用5、6年目の若手職員しているが、中途採用が増え、家庭を持っている職員が担当することもある。土日に地域のイベントに参加するために、家庭の調整に負担がかかり、配偶者や両親に頼ったことが、やりがいはあったが研修をネガティブに捉えてしまったと考えられる。市民協働推進課でも、課題として受け止めているが、研修の目的から、継続する考えである。
- ウ 家庭の事情は理解できるが、評価に影響が出るほどであれば、研修ができないという職員は外すべきではないか。研修職員の選定に問題があるのではないか。
- エ (市民協働推進課) 選定については、すべての職員を対象としているが、育児休暇や体調不良等で休職している職員は対象外としている。地域側で改善できるものと研修の制度に関するもので分ける等、令和7年度以降のアンケートの取り方を考えいく。
- オ あまりよくないと回答した理由を記載しておくべきではないか。
- カ (市民協働推進課) 次年度以降のアンケート集計で、反映させていく。各まちづくり協議会にきずな研修のアンケートをメールで送付させていただいたが、後程紙媒体で配布する。

(2) 令和7年度の研修内容

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

4. 地域ごとのまちづくり計画

市民協働推進課より、以下(1)～(2)について、再周知があった。

- (1) (※再周知) 令和6年度進捗確認の実施について(6/13(金) メ)
- (2) (※再周知) 総会での周知(令和6年度進捗確認、後期計画の策定)について

5. 市民協働推進課からのお知らせ

(1) (※再周知) 令和7年度協働の取組推進担当次長の任命について

市民協働推進課より、標記について、再度、周知を行った。

(2) (※再周知) 令和7年度(2025年度)まちづくり協議会代表者の個人情報の提供について(お願い)(5/30(金) メ)

市民協働推進課より、標記について、再度、周知を行った。

(3) わたしの防災力UPガイドの配布について(人権平和・男女共同参画課)

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

- ア パンフレットは余分にあるのか。
- イ (市民協働推進課) 5000 部作成しており、少數であれば配布は可能だと思う。しかし、全コミュニティに配布することは難しいため、必要な部数があれば人権・男女共同参画課に相談してほしい。データは、代表者に送付している資料に含まれている。
- ウ (総合防災課ではなく、) わざわざ男女共同参画課が関わって作ったということで、パンフレットの特徴はあるのか。
- エ (市民協働推進課) 女性の視点に立ったところからスタートしているのだと思う。ただ、このご時世、女性以外の視点も大切と考え、一般的な防災についても載っており、確かに特色が分かりにくくなっている部分もあるかもしれない。ただ、地域で防災の取組を進める中で、少しいつもと違った観点から考えるきっかけとして、作成した団体さんにお声掛けいただけたら良いと思う。
- オ P. 6 に海外の防災との比較があるが、総合防災課として実際にどこまでできるかという部分があると思う。発行する部署によって、内容が異なるのではなく、市として調整を図って作成する必要があると思う。
- カ 女性目線以外にも子どもや高齢者目線等の防災もあると思う。さまざまな視点についてそれぞれの部署から縦割りで出てくるのではなく、総合防災課として組織をまとめて考えていくべきだと思う。
- キ (市民協働推進課) お預かりした意見は共有させていただく。市として防災を考える際、資料がたくさん出てきて分かりにくいとあるが、最終的には総合防災課が 1 つの軸として方針を決めていくと思う。一方で、各担当課がそれぞれの分野について管轄業務内で施策を打ち出している現状がある他、特に今回は市民団体と共同で考えているため、統一することが難しく、市民団体の視線で考えられていると思う。

6. 社会福祉協議会からのお知らせ

(1) コミュニティコーピングについて

社会福祉協議会より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。意見交換の内容は以下のとおり。

- ア 若い世代でも、孤立死が増えていると聞く。
- イ 最近は、40 代 50 代でも孤立死があると聞いている。引きこもっていたり、家族が亡くなられてつながりがない場合もあると考えられる。

7. 公園区計画に係るアンケート調査結果及び今後の流れについて（公園河川課）

公園河川課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

- ア 公園区計画作成の地区の抽選はいつ実施するのか。
- イ (公園河川課) 可能であれば、本日交流会終了後にやりたいと考えている。

- ウ 具体的にどのようなことをするのかまだ分からない。今回抽選で選ばれたまち協の進捗状況について、情報をその都度共有するのか、当選したまちづくり協議会に見学しに行けるのか、何らかの状況を知ることはできるのか。
- エ (公園河川課) もともとモデル事業から横展開を図っていく趣旨から、今回先行している地区については、残りの地区的作成をスムーズに行うために、できる限り公開したい。代表者交流会での進捗状況の報告やワークショップにオブザーバーとして見学していただきたいと考えている。
- オ 内容によっては、市が入らずともまちづくり協議会でできると判断するところや、独自で県や市に補助金などを申請するところもあるかもしれない。さまざまな情報を公開し共有してほしい。

8. 退任代表者及びR6年度座長・副座長コメント

令和7年度の総会をもって退任する代表者及び令和6年度の座長・副座長よりコメントがあった。

9. その他

(1) 高齢者専用バスチケットについて

- ア (中山台) 地域内に高齢者専用バスチケットの売り場がないため、地域内にある小売店での販売を考え、高齢福祉課と相談したところ、阪急バス株式会社からその店への卸価格は販売価格と同額のため、その店の利益にならないことが分かった。ほかのまち協はどのようにしているのか聞きたい。
- イ (西山) 逆瀬川駅前のバス会社の販売窓口で購入している。
- ウ (西谷) 当地域はそもそもバスがない。

10. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の予定について周知があった。